

晴れの国

「おかやま子育てカレッジ」 シンポジウム

～大学・地域・行政の
協働による子育て支援～

—記録集—



©岡山県2006



日時

平成 24年 **9月2日(日)** 13:40～17:20 (開場/13:00)

会場

岡山コンベンションセンター [ママカリフォーラム]
2階 レセプションホール

岡山市北区駅元町14-1 / TEL.086-214-1000 (JR岡山駅中央改札口から徒歩3分)

主催：岡山県、財団法人自治総合センター

共催：Sanyo子育て愛ねっと実行委員会、中短子育てパーク実行委員会、にいみ子育てカレッジ運営協議会、
旭川荘子育て応援隊「あそぼう屋」実行委員会、「子育て支援プロジェクト・IPU」実行委員会、
就実子育てアカデミー実行委員会、中国学園大学こども・あごら実行委員会、
県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会、吉備国際大学たかはし子育てカレッジ実行委員会、
倉敷市立短期大学子育てカレッジ実行委員会、みまさか子育てカレッジ実行委員会、
岡山市、倉敷市、津山市、総社市、高梁市、新見市、瀬戸内市、赤磐市

後援：内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、社団法人全国保育士養成協議会、
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会、中・四国保育士養成協議会、岡山県保育士養成協議会

※このシンポジウムは、全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施したものです。

はじめに

近年、少子化、核家族化の進行などを背景に、子育てに不安や悩み等をもつ親の増加や、地域社会で子どもを育てる力の低下が顕著になり、子どもの成長に必要とされる身近な地域での子育て支援の充実が求められています。

このため、岡山県では、平成21年度からの本県独自の子育て支援の取組である「おかやま子育てカレッジ」を、大学、地域、県及び関係市町村の協働により、全国へ情報発信するため、平成24年9月2日に、シンポジウムを開催し、その内容を記録集として作成しました。

シンポジウムでは、3人の方による講演や「おかやま子育てカレッジ」に関するパネルディスカッションを行いました。

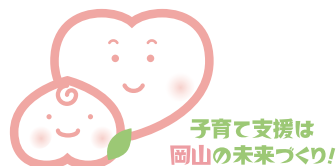
講演では、内閣府の伊奈川審議官からの「子ども・子育て関連3法」に関する情報提供、岡山県在住の作家あさのあつこさんや玉川大学の^{おおまめうだ}大豆生田先生から、「おかやま子育てカレッジ」の意義や子育て支援の今後に向けた提言などがありました。

また、パネルディスカッションでは、県内の子育てカレッジ関係者と神戸大学の伊藤先生から、子育てカレッジのネットワークづくりや質の向上、そして、情報発信について、熱のこもった発言が続きました。

この記録集が、大学・地域・行政の協働による子育て支援のあり方を探る資料となり、また専門家の方々と地域の皆様方、そして私たちをつなぐものとなれば幸いです。

平成25年1月

岡山県保健福祉部長 伯野 春彦



晴れの国

「おかやま子育てカレッジ」シンポジウム

～大学・地域・行政の協働による子育て支援～

大学、地域、県及び関係市町村の協働による、ユニークな子育て支援の取組「おかやま子育てカレッジ」を、全国へ情報発信するためにシンポジウムを開催しました。

開催日時：平成24年9月2日（日）13:40～17:20（開場／13:00）

開催場所：岡山コンベンションセンター〔ママカリフォーラム〕2階 レセプションホール

プログラム

開会あいさつ 石井 正弘（岡山県知事）

来賓あいさつ 伊奈川 秀和氏（内閣府大臣官房少子化・青少年対策審議官）

基調講演 1

講師 伊奈川 秀和氏（内閣府大臣官房少子化・青少年対策審議官）

演題 「少子化対策・子育て支援策の現状と課題」

記念講演① 2

講師 あさの あつこ氏（作家）

演題 「いま、子どもたちに伝えたいこと」

記念講演② 3

講師 おおまめうだ 大豆生田 啓友氏（玉川大学教育学部乳幼児発達学科准教授）

演題 「支え合い、育ち合いの子育て支援」

パネルディスカッション 4

テーマ 「子育て支援のネットワークづくりを目指して」

コーディネーター 佐藤 和順氏（就実大学教育学部初等教育学科教授）

パネリスト 片山 啓子氏（新見公立短期大学幼児教育学科教授）

国正 恵美子氏（NPO法人赤磐子どもNPOセンター代表理事）

篠田 絵里氏（総社市保健福祉部健康づくり課主任）

伊藤 篤氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授）

パネル展示

おかやま子育てカレッジの説明 15

アンケート等

アンケート結果 28

「少子化対策・子育て支援策の現状と課題」

伊奈川 秀和氏

【プロフィール】

昭和57年厚生省に入省。

現在は内閣府の大臣官房少子化・青少年対策審議官と官房審議官及び子ども若者・子育て施策総合推進室長を兼務。



発言要旨

今回、成立した子ども・子育て関連3法に関しては、社会保障と税の一体改革の法案の中で、一つの柱に位置づけられており、非常に、画期的なことである。

この制度改革では、どうしても、幼稚園、保育所はどうするのかという点に目がいくが、もう一つ重要なコンセプトとしては、基礎的自治体である市町村を中心に、国とか、県が重層的に支援をして、子ども・子育ての施策を取り組むということがある。

また、これまでの議論の中であった、幼稚園と保育所の一体化をどうするのかということについて、政府の方で提案したものに対して、国会で修正があり、幼保連携型について、認定こども園法を改正するということになった。

新たな制度では、地域そして子育てをされてる方も含めて、それぞれの地域でこのニーズにどう応えていくかが、大きな柱になっている。また、制度自体は消費税の引き上げのタイミングで、実施・施行するということになっており、まだ少し時間はあるが、色々な準備が必要になるため、皆様方のご理解とご協力を仰げればと思う。

「いま、子どもたちに伝えたいこと」

あさの あつこ氏

【プロフィール】

岡山県美作市在住の小説家。

児童文学作家。

ベストセラー小説「バッテリー」、「The MANZAI」等作品多数。



発言要旨

子育てに関する情報というものは、とても大切なものであり、私が子育てをしている時は、まだ、近所の方に、「あさのさん、あさのさん、そんなことしちゃいけないので」とか「子どもって裸足で遊ばええんよー」と言われたり、足が地についたような情報が入っていた。

今は、情報が、一杯あるにもかかわらず、自分の中に、うまく入っていかないことがあるが、これは、情報が多過ぎて、どれをどう信じていいのか、わからないからだろうと思う。

だから、子育てしてる者同士で、ぺちゃくちゃ話すこと、それから、専門家の方にきちんと専門的なことを教えてもらうこと、あるいは、子育ての先輩の人達に教えてもらうことは、とても良いことだと思う。また、「子育てられ」から抜き出てきた、例えば、高校生とか大学生の若い人達の気持ちを聞くこととか、色々なことができると思う。

複合的に色々なことができる場として、カレッジという言葉を、ここでは使っていると思うが、そういう場は、とても、良いものだと思う。

※この講演は、対談形式で行いました。

「支え合い、育ち合いの子育て支援」

おおまめうだ
大豆生田 啓友氏

【プロフィール】

日本保育学会理事、NPO法人「びーのびーの」理事
NHK教育テレビ「すくすく子育て」のコメンテーターとして出演



発言要旨

NPO法人「びーのびーの」と私が共同で行った学生の家庭訪問事業では、家の中で小さな子と接して、学生達は、色々なことに気づくことになった。

夕方になるとぐずるとか、ベビーカーで外へ出ると、色々な所にバリアがあるとか、家の中で子どもを世話することが、どういうことなのかも、学生達は知ることになったが、なんと言っても、こんなに自分がちょっとしたお姉ちゃんやお兄ちゃんになったような経験というものは、学生にとってのメリットが大きかった。

また、家庭のメリットも大きかった。そのため、ちょっと家事をしている間に、学生に遊んでもらったりすることは、多くのお母様やお父様達に、感謝を得ることができた。

その意味で、岡山県の子育てカレッジについても、学生が関わるということが多いと思うので、その学生が、これから、どういうふうに支援と関わっていくかということも、大きなテーマだろうと思う。

「子育て支援のネットワークづくりを目指して」

コーディネーター 佐藤 和順氏
 パネリスト 片山 啓子氏
 国正 恵美子氏
 篠田 絵里氏
 伊藤 篤氏

【プロフィール】

- 佐藤 和順氏（就実大学教育学部初等教育学科教授）
 ・就実大学及び就実短期大学の子育てカレッジを運営する「就実子育てアカデミー実行委員会」委員長
- 片山 啓子氏（新見公立短期大学幼児教育学科教授）
 ・おかやま子育てカレッジ全国発信事業代表世話人
 ・新見公立短期大学の子育てカレッジを運営する「にいみ子育てカレッジ運営協議会」運営委員長
- 国正 恵美子氏（NPO法人赤磐子どもNPOセンター代表理事）
 ・環太平洋大学の子育てカレッジを運営する「子育て支援プロジェクト・IPU実行委員会」委員
- 篠田 絵里氏（総社市保健福祉部健康づくり課主任）
 ・岡山県立大学に開設されている「県大そうじゃ子育てカレッジ」の立ち上げに尽力
- 伊藤 篤氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授）
 ・兵庫県内の20大学・短大からなる「ひょうご地域子育て支援大学間連絡協議会」会長
 ・神戸市灘区役所旧庁舎における大学子育て支援サテライト施設「あーち」を運営



佐藤 和順（以下 佐藤）皆様、こんにちは。まず最初に、県内のパネリストの方から、10分間それぞれの子育てカレッジの様子だとか、こういった効果がありますよ、といったお話、そして伊藤先生からは、他の都道府県の先進的な事例、また、おかやま子育てカレッジのネットワークはどのように見えるのか、ということをご発表いただきたいと思います。そしてその次に、大学を核にし

た子育てのネットワークはあるけれども、大学同士、隣の大学とのネットワーク化など、今後のおかやま子育てカレッジの発展的な課題について、各5分ずつご発表をいただければと思っております。それでは、片山先生からお願いします。

片山 啓子（以下 片山）皆さん、こんにちは。新見の片山です。にいみ子育てカレッジの立ち上がりですが、

平成19年の夏頃でした。岡山県の備中県民局の子育て支援班からご連絡があり、地域の重要な社会資源である大学の専門性というものを生かして、地域協働で子育て支援をやりませんか、地域協働を行政の方で推進・提唱しますので、子育てカレッジという形でやりませんか、というお話をいただきました。大学内でもちょうどその頃に、新見市学術交流センターを建設中で、その中に子育て



これからも地域協働というそれぞれが良いところを出し合って、補い合っていけるような形で進めていきたいと思っています。

佐藤 はい、ありがとうございます。片山先生から、立ち上げの段階からいかに交流をしてきたのかというお話をしていただきました。ミーティングをして、顔を合わせることによって、人間関係ができて、それが信頼感に繋がり、子育てカレッジの基盤になっているのではないかというお話であったかと思います。次は、地域のNPOのお立場から、子育てカレッジがどのように見えているのかということにつきまして、国正さんからご発表いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

国正 恵美子〈以下 国正〉失礼いたします。赤磐市から参りました赤磐

子どもNPOセンターで事務局長をしております国正と申します。今日は、よろしくお願いいたします。

I P U（環太平洋大学）さんは開学してまだ6年という歴史の大学ですが、子育てカレッジは3年目を迎えており、大学そのものが開学してまだ間がないのに、地域の子育てに尽力をしてくださっているということで、地域では大変頼もしいと見させていただいております。私の所属団体は、赤磐市の方から委託も受けて子育て支援の事業をやっているNPOなのですが、開学して間がない大学と地域のかけはしのような役ができることが私の使命かなと思って、実行委員をさせていただいております。ネットワークという視点から、子育てカレッジから少し離れますけれども、赤磐市の中で、私達も30年子育て支援の活動をしてきたのですが、子どもたちを取り巻く状況が、

私どもだけでは良くならないということで、地域のネットワークなくしては、子どものことは何ともならないなと思ひまして、赤磐市との協働で、平成23年度はI P Uさんにも入っていただいて、赤磐市ネットワーク推進事業というのを興しました。I P Uの先生にも関わっていただきましたし、社会福祉協議会、PTA、商工会、更生保護女性会とか赤磐市にある色々な団体に手伝っていただいて、赤磐市のネットワークを作ろうと今年で2年目です。そういうネットワークづくりの中から、様々な事業もやり、子育て中のお母さん方にもアンケートをしながら、これからの赤磐市での子育て支援にはなにが必要なのかという活動を、始めているところでございます。ネットワークが作れたのも、I P Uの専門の先生にネットワーク上で、ご助言をいただけたことが、大きかったかと





思います。子育て支援といいますが、私どもが行っているのは、0～3歳の支援ですが、IPUさんが行っているプロジェクトは、小学生を対象にした事業も多いです。小学生や中学生が、地域で遊ぶ場所が、本当にはないのですが、IPUわくわくキッズ広場などでは、たくさんの小学生が参加して、一生懸命身体を動かし、本当の意味での体験ができています。中学生や小学生に向けての支援を、IPUさんが担っていただいています。これからは、そこにも、期待していきたく思っています。

佐藤 ありがとうございます。今、国正さんから、地域で長く活動しておられたNPOさんが、大学と地域のかけはしとして子育てカレッジに参画をし、新たな赤磐市のネットワークに、大学を招き入れて、活動展

開をしているというお話をいただきました。続きまして、行政の立場から、この子育てカレッジというのはどのように見えるかということ篠田さんからご発表いただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

篠田 絵里（以下 篠田）総社市役所の篠田と申します。よろしくお願いいたします。私からは、行政からの立場でということで、今日は、三つテーマを絞って発表させていただいております。一つ目は、総社市が子育てカレッジに取り組んだ経緯。二つ目が、子育てカレッジに取り組んで得られたもの。三つ目が、カレッジに取り組む中の行政の役割。三点報告をさせていただきたいと思います。総社市には、大学が1校、岡山県立大学がありまして、この県立大学と一緒に、取り組みを進めてきたのが、県大そうじゃ子育て

カレッジです。カレッジについて、市が取り組んだきっかけが三つあります。一つ目ですが、平成20年2月20日に岡山県立大学と総社市は包括協定を締結しています。これは、大学の持つ人的・知的・物的財産を活用した街づくりを推進することで、市と大学で協定を結んでいます。二つ目が、次世代育成支援行動計画の中で、総合的な子育て支援センターの開設を検討することが明記されています。実際に平成17年に計画を立てた当初、どんな支援センターを想定していたかということ、機能としては交流の場をつくりますとか、相談・情報提供や講座をしますとか、カレッジの機能に似ているようなものを、総社市としては計画に載せていました。三つ目が、平成20年度の保健福祉部長マニフェストで、つどいの広場を21年と22年に一ヶ所ずつ設置することとしていました。





ここまで話したら順調に来たと思われるかもしれませんが、本当に大変でした。実際に取り組んでみて良かったと思うことは、本当に市民に対して良いサービスが提供できたということだと実感しています。県立大学はキャンパスが広いのですが、利用される親子は、本当に日常とは違う空間を体験するんですね。学生さん達ばかりですし、そういう意味ですごく良いサービスが提供できていると思います。ただ広場があるというだけではなく、大学にあるという意味が大きいと思います。また、地域のニーズを大学に届けるということでも、大きな意義があったと思います。最後ですが、本当に、産みの苦しみではないですが、色々なことがありましたが、その中で、行政として何をしてきたかなと思うと、やはり関係機関との連絡調整、それから予算の確保というのが大きかっ

たと思います。

佐藤 はい、ありがとうございます。行政の立場から、子育てカレッジにおける関係機関との連絡調整や予算の確保への尽力、また、カレッジがどのような効果や役割を果たしているかということをご発表いただきました。続きまして、神戸市・兵庫県先進的な事例として、どういものがあるのか、そして他県関係者には岡山の子育てカレッジはどのように見えているのかにつきまして、伊藤先生からご発表いただければと思います。それではよろしく願いいたします。

伊藤 篤 (以下 伊藤) よろしくお願ひします。先程、岡山の取り組みは全国発信に値すると片山先生がお答えになったということですが、私も岡山の取り組みを評価しています。

私が知る限りでは、子育て支援に関して、大学にいる個別の教員がアドバイスをするとか、スーパーバイズするという事は全国どこでも行われていると思いますが、大学が行政や地域のNPOなど様々な支援者などと連携しながら支援を展開するというケースはあまりないですね。そういう意味では、全国でも先進的な取り組みを岡山では展開なさっていると考えていいのではないかと思います。神戸市では、大学が地域子育て支援拠点として指定され、支援に取り組んでいます。この点を皆様が先進的と評価してくださっているのだと思いますが、今日は、神戸市や兵庫県の実情をご紹介し、ここから岡山の子育てカレッジの特徴や今後の方向性をお話したいと思います。神戸市は、地域子育て支援拠点のひろば型を核にして大学と連携をするという戦略をとってしまして、順次





大学を拠点として指定してきています。現在、神戸市内の大学の拠点は5つあります。神戸大学と神戸松蔭女子学院大学は、同じ灘区内にありますので、互いの「ひろば」の情報を交換し合うといった連携がありますが、せっかく神戸市から指定を受け、それぞれに「ひろば」などの事業を実施しているにも関わらず、5つの大学の間では、残念ながら実際に情報交換を含め、ほとんど連携はしていません。良い意味では、各大学が独自に主体的に運営を進めていると考えることができるのですが、悪く言えば、お互い孤立無援のまま頑張っているということになります。したがって、大学間が十分に連携している実態は、残念ながら神戸市にはないということになります。それに対して、兵庫県レベルでは、大学間の子育て支援に関する任意団体「ひょうご地域子育て支援大学間連

絡協議会＝HUG Cafe（ハグカフェ）」が創られています。平成23年6月11日に創立して、現在20の大学・短期大学で会員が46名います。今年度は、2回目の総会と1年目で受けた委託研究の報告会、この11月は、日本子育て学会の第4回大会を神戸大で開きますが、その準備委員会も担当しています。また、拠点のコーディネーター研修講座のテキストも編集したり、研修会を開催したりするなど、この2年間目まぐるしく活動してきました。そして、こうした活動のほとんどが、兵庫県からのバックアップを受けています。もし、県のバックアップがなければ、もう少しこじんまりとした研究的な集まりといえますか、そういう活動になっているのだろうと思っています。さて、岡山の子育てカレッジですが、指定されている11箇所のうち、4大学が地域子育て

拠点で、残りの7大学は拠点ではないという2層構造になっています。しかし、拠点をしていない7大学の活動を見てみますと、大学の中あるいは外で親子交流のプログラムや親子学習のプログラムを展開されていますし、地域子育て支援拠点になっている4箇所については、拠点として求められている基本事業をしっかりと実施されていらっしゃる。また、こうした11のカレッジの間では、情報交換の機会もあると聞いています。そうすると、現在のこの2層構造、言い換えれば、この多様性を今後どのように生かしていくのか、それが岡山の課題だと思います。残りの7カ所を計画的に次々と条件を整えて、すべてを拠点にしていこうを目標にすることが、必ずしも良いわけではなく、それぞれの地域特性を踏まえて、各カレッジが支援をどう展開していくのかを考え、実





行していくことが大切だと感じます。いずれにしても、大学らしさを生かしていくことは重要で、例えば、この7大学については、大学の専門性を生かしながら、できるだけ各大学周辺の地域に出向いて支援を展開する方向で、その内容を作っていくらどうかと思います。また、拠点の4大学では、県内の大学以外の主体が運営する数多く拠点が、モデルとして参考ができるような、先駆的な取り組みをどんどん導入していくという工夫が、あり得るのではないかと思います。

佐藤 ありがとうございます。伊藤先生から、神戸市また兵庫県の事例を挙げていただきました。また、岡山県の子育てカレッジのネットワークが、大学間の連携として、一定の効果があるのではないかと、今後岡山でのカレッジの多様性というものを

うまく利用していくには、どのようにしたらいいのかということをご示唆いただいたのではないかと思います。続きまして、先程の伊藤先生のお話を受けまして、大学間のネットワーク化をどうするのかとか、もっと大きい目で見れば、岡山の子育てカレッジはどのような方向にむかっていけばいいのかということについて、また、大学・地域・行政・NPO、そういったところから、ご発表いただいて、また、伊藤先生にも、最後に、ご示唆をいただければと思っております。それではまた、片山先生から今後の課題等につきまして、よろしく願いをいたします。

片山 はい。伊藤先生からお話をいただきまして、ネットワークが良くできているというお話でしたが、実際は、まだ会議を開いたという段階で、それぞれの自己紹介や活動紹

介ぐらいなんです。もう少しそれぞれの質を高めるべく、色々な充実した話し合いができるようなネットワーク会議をしたいということと、同じするのなら、全員が集まるのはもちろん、大学なら大学、行政なら行政と、分科的に分かれて行うことも必要なと思っています。三者が協働でやっているというのも特徴ですが、それぞれが、やはり立場的に違うところがあるため、そういった分科的な形も取り入れたネットワーク会議で、それを協議会という形にしていきたいなと思っています。それぞれの強み、弱みを生かすということで、大学の特徴を生かした形で取り組んでいけはしないかと、それから、行政は行政でおそらくそれぞれの特徴があると思いますが、分かれながら、あるいは、集まりながらということを繰り返して、ネットワークの質を高めていきたいと思っ





ています。

佐藤 ありがとうございます。強み、弱み、大学の特徴をどのように生かしていくのかということですね。地域性・組織の違いもあります。そういったことを考慮することも、今後の発展に不可欠ではないかといったご発表ではなかったかと思います。

片山 もう一つですね、私が課題として思っているのは、今、大学がある自治体には、カレッジのサービスが提供できるのですが、岡山県内には大学のない市町村もあります。岡山県で取り組んでいるというのが売りですから、そうすると、やはりアウトリーチという形も含めて、何か大学が、大学のない自治体にも、何かできればいいかなと思っています。

佐藤 ありがとうございます。大学

のない地域もあります。逆に大学が重複している地域もあります。そういった意味では、アウトリーチという考え方は、良い方向性を示せるのではないかと思います。続きまして、NPOの立場から、子育てカレッジの今後の発展のためには、どのようなことが必要なか、課題なのかということをご発表いただければと思います。よろしく願いいたします。

国正 失礼いたします。昨年、赤磐市内で、0～3歳を育てているお母さん達の914人にアンケートをとることができました。その中で、お母さん達が、行政に何を望みますかという設問に対して、親子で気軽に行ける場所がほしいというのが、一番多かったのです。では、行ってる人はどこに行ってるんですかという設問に対して、私どもの事業を行っている子育て支援センターというの

を選んだ方が、914人中150人しかいなかったのです。やはり、支援センターとか子育てカレッジへも、全然行ったことがないという方が、多分たくさんいらっしゃるだろうと、そういう方をどうやって支援していくのかが、大きな課題になるのかなと思っています。とにかく、それぞれの特性を生かした支援の場所が多くなると、お母さん達は、多様な価値観の中で生活していらっしゃるの、一通りの支援では、なかなか大勢のお母さん達を支援するというにはならないのかなと思っています。やはり、参加したお母さん達がどうやって主体的に支援事業の中で活動してもらおうというか、生かしてあげられるのかということが課題だろうかなと思っています。お客様のままで、つどいの広場に来ていただくというのは簡単といえば簡単ですが、そこのお母さん達がいか





主体的になるかということ、本当に、大学や地域やネットワークの中で、課題として考えていきたいなと思っています。また、私どもの事業の中で、発達障害の子ども達についての相談を、たくさん受けるようになってきました。そういう意味では、専門的な集団である大学には、色々なプロの先生方が大勢いらっしゃるの、ぜひ、そのあたりも、今後考えていただくと、地域にとっては、大変ありがたいなと思っています。

佐藤 はい、ありがとうございます。障害を持ったお子さんも含め、多様な価値観に対応した子育て支援の在り方の多様化への対応ということも課題だろうし、お母さん方に、いかに主体的な参加を促していくかということが、子育てカレッジの成否に繋がるのではないかと、ご意見であろうかと思います。続きまして、

行政の立場から子育てカレッジについて、今後どのようなことが課題になるのかということについて、篠田さんからお願いしたいと思います。

篠田 カレッジの実行委員会では、色々な意見が飛び交って、2時間何を話したんだろうという時もあるのですが、やはり、そういう積み上げを一つずつしていくことが、継続に繋がっていくだろうし、進化というか前進に繋がっていくのかなと思っています。県大の子育てカレッジもまだ3年目ですけども、毎年毎年、課題を見つけ、皆で取り組んでいます。とにかく継続をして活動していくこと、それから少しずつ仲間を増やしていくこと、これは市内の中であるかもしれないし、あるいは県内の仲間になるかもしれないですが、少しずつネットワークを広げていくことが大事なかなと思います。それか

ら、行政の立場からですが、カレッジを立ち上げるに当たって、また、継続していく中でも、県民局の支援というのは大きかったなと思っています。今後も同じ行政ではありませんけれども、県民局の方には、大きな視点でカレッジを見ていただいて、そういう支援もいただきながら、継続して取り組んでいけたらいいのかなと思います。

佐藤 ありがとうございます。継続して取り組んでいくことの大切さと、色々な課題、行政として地域の現状を伝えて少しでも進化をしていくということ、そしてネットワークを広げていくことに言及いただいたのではないかと思います。それでは、伊藤先生からご提案を含めましてご発表いただければと思います。

伊藤 大学による地域の子育て支援





にかかわって、兵庫県での課題を紹介します。先程、HUG CaFE活動を説明したのですが、実は会員校の中では、幼稚園教諭の免許取得や保育士の資格取得、あるいは看護系の資格取得を目指す養成校が多いため、先生方が実習指導のために、多くの時間を割かなくてはなりません。これが大きな理由で、なかなか協働の取り組みが進めにくいという問題があります。また、兵庫県全体で見ますと、会員校の中で地域子育て拠点を担っている大学が8つあるのですが、こうした拠点は今後、単に支援しているだけではなく、利用者や地域にとってどんな効果をもたらしているのか、支援の質が担保されているのかなどについて「評価」が必要になってくると考えます。しかも、プログラム数が多いとか、相談者数が多いとか、ひろばの利用者が多いなどに代表される数字の上で

の評価でなく、なぜ特定の効果や成果が見られたのか、見られないのかといったプロセスも評価していく必要があると思います。もう、そういう段階に来ています。だから、我々兵庫あるいは神戸の立場からすれば、今後、岡山やおかやま子育てカレッジと連携することがあるとすれば、今日は充分にご紹介できなかったのですが、支援者の研修講座のカリキュラムを協働で立案するとか、拠点評価の視点やその方法を共同で研究するとかが考えられます。こうしたことを、もし一緒にできたら、大変ありがたいと思います。

佐藤 はい、ありがとうございます。私、今日のパネルディスカッションの内容をですね、次の三点に要約させていただきたいと思っております。一番目、より密な、より濃い協働関係ネットワークというものを、今後

作っていく必要があるのではないかと思います。繋がっていくということになると思いますけれども、協働関係ネットワークを作っていく時には、やはり、Win-Winの関係、繋がって、お互いにとってメリットのある活動でなければ、なかなか継続していくことは難しいと思います。ある一つの団体、ある一つの先生、ある一つの大学、あるパート・部門に負荷がかかってしまってメリットがないようでは、一時的には繋がっていられても、それを継続していくことは難しいと思いますので、Win-Winの関係、お互いにメリットがある関係作りをしていくということです。二番目は、伊藤先生の最後のお話にもありましたけれども、やはりこれからは、質の向上というものを目指していかなければならないだろうと思っております。岡山の子育てカレッジの取り組みは、多様





で非常に良いと思います。情報交換などを通して、今後は、やはり子育て支援の従事者の質の向上を図るような研修会ですとか、また、評価のシステムというものを作っていくということが必要ではないかということです。そして、最後三番目に、発信するという。大学が重複する地域・大学がない地域で、どのようにアウトリーチをしていくのか、どのように出向いていくのか等々、そういったことが大事になってくると思います。一番目は、より密な協働関係ネットワークづくり。二番目は、質の向上ということ。三番目は、発信をしていくということ。そういった意味で、本日の、子育て支援のネットワークづくりを目指していくというパネルディスカッションもそうですし、シンポジウム自体も全国発信をする、非常に良い機会ではなかったかと思っております。最後に、

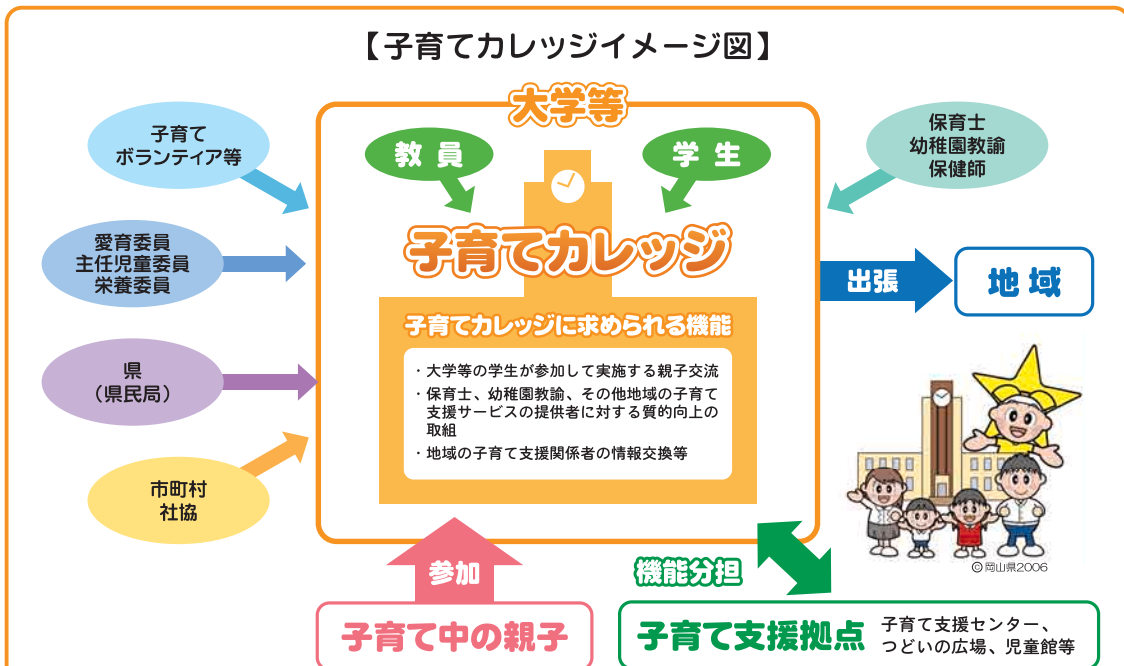
このシンポジウムにご参加いただきました皆様、そしてパネリストの皆様、ありがとうございました。



「おかやま子育てカレッジ」とは

趣 旨	大学等有する知的財産、人的財産やそのネットワーク、施設等を活用して行う、協働による地域ぐるみの子育て支援の取組を県が「おかやま子育てカレッジ」に指定（平成21年度～）
実施団体	大学等（保育士養成校）、地域の子育て支援サービスの提供者やその利用者、愛育委員、児童委員、関係団体、県、市町村、企業等で組織する実行委員会
特 長	子育てカレッジの立ち上げ時のコーディネートをし、県（県民局）が行うことで、地域の子育て支援関係者との連携がよりスムーズ

【子育てカレッジイメージ図】



◆おかやま子育てカレッジに指定している大学等（H.24.4.1 現在：11カレッジ）

山陽学園短期大学、中国短期大学、新見公立短期大学、旭川荘厚生専門学院、環太平洋大学、就実大学・就実短期大学、中国学園大学、岡山県立大学、吉備国際大学、倉敷市立短期大学、美作大学・美作大学短期大学部



① 岡山県内での保育士養成の組織的な取組 (岡山県保育士養成協議会)

岡山県内には、保育士養成をする大学や専門学校が多くあり、「岡山県保育士養成協議会」を組織し、保育士養成に関わる活動を進めています。主な活動は、保育実習のための手引きの作成や実習園の配属や実習期間などの調整、研修会の開催などを行い、岡山県全体での保育士養成の質の向上を目指しています。

【岡山県保育士養成協議会会員校：20校（アイウエオ順）】

- | | |
|---------------|----------------|
| ◆ 旭川荘厚生専門学校 | ◆ 岡山県立大学 |
| ◆ 岡山情報ビジネス学院 | ◆ 岡山大学 |
| ◆ 岡山短期大学 | ◆ 川崎医療短期大学 |
| ◆ 環太平洋大学 | ◆ 吉備国際大学 |
| ◆ 吉備国際大学短期大学部 | ◆ くらしき作陽大学 |
| ◆ 倉敷市立短期大学 | ◆ 山陽学園短期大学 |
| ◆ 就実大学 | ◆ 就実短期大学 |
| ◆ 中国学園大学 | ◆ 中国短期大学 |
| ◆ 新見公立短期大学 | ◆ ノートルダム清心女子大学 |
| ◆ 美作大学 | ◆ 美作大学短期大学部 |



② 岡山県内での地域子育て支援の新たな取組 (ももっこステーション)

岡山県内には、地域子育て支援拠点が、106か所あります。

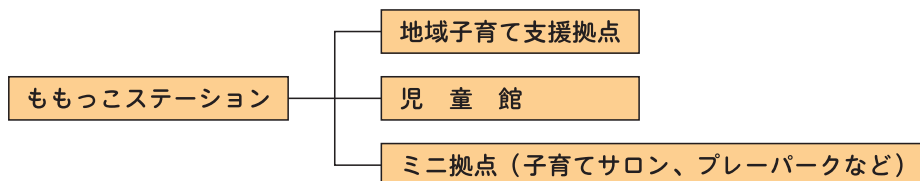
【地域子育て支援拠点の内訳（平成24年度当初）】

- ◆ ひろば型・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38か所
- ◆ センター型・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62か所
- ◆ 児童館型・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2か所
- ◆ その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4か所
- ◆ 計・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106か所



県では、平成24年度、地域子育て支援拠点など乳幼児とその保護者が気兼ねなく訪れ、相互に交流したり、子育て相談ができる一定の場所を包括的に「ももっこステーション」として認定し、認定した場所に、統一シンボルマークを付した看板やのぼりなどの宣伝資材を配付するとともに、ホームページなどで認知度を高め、利用を促進する事業を行うこととしています。

このほか、県独自で、これらの場所に従事するスタッフ向けの研修事業や施設整備費の補助制度も設けています。



Sanyo子育て愛ねっと

(山陽学園大学・短期大学)

設立年月日	平成21年 6月 1日
主なメンバー	山陽学園大学・短期大学、平井学区連合町内会、岡山市平井保育園、岡山市平井幼稚園、山陽学園短期大学附属幼稚園
所在地	岡山市中区平井1丁目14-1
連絡先	086-272-6254



活動内容

『Sanyo子育て愛ねっと』概要

本学は、「愛と奉仕」の建学の理念のもと、専門職としての高い知識や技能をもち、ボランティア活動など地域との交流を通して社会に貢献できる人材の育成に努めています。Sanyo子育て愛ねっとでは、幼児教育・食物栄養・看護の3学科が連携し、地域の方たちと保育・食育・看護の領域から子育て支援関連事業（親子交流広場）を推進しています。広場では「健康」「食」をキーワードに、親子と学生が気軽にふれあえる活動を展開しています。

七夕交流会

開催日時 7月 開催場所 山陽学園大学・短期大学 山陽学園創立110周年記念館

七夕にちなんだ笹飾りと、キュウリやナスを使ったお供えを作ったり、学生によるパネルシアターの上演を親子の皆さんに楽しんでいただきました。制作や七夕の物語を通してその風習や由来について学びました。



食育教室

開催日時 12月（今年は12月8日です）

開催場所 山陽学園短期大学 食物栄養棟（B棟）

親子でいもまんじゅうを作りました。包丁で切ることにもチャレンジしました。難しかったけど、上手に出来ました。

甘くておいしかったよ！



いもまんじゅう



幼児教育学科 つくってあそぼう！

すてきでしょ♪

健康わくわくスタンプラリー

開催日時 11月（今年は11月18日です）

開催場所 山陽学園大学・短期大学

看護学科・食物栄養学科・幼児教育学科の3学科合同の親子交流広場です。「食育」「健康」をテーマに学科の特長を活かした色々なコーナーがあります。「つくってあそぼう」コーナーでは思い思いのコスチュームを作り、かわいい衣装が出来上がりました。食育カルタや、クイズにも挑戦し、正しい手洗いの方法を学生と一緒に学びました。最後に皆で食べた豚汁はとても美味しかったですよ。

具たくさんで大好評！



豚汁



看護学科 親子で手洗い・感染予防



食物栄養学科 食育カルタ

詳細は本学ホームページ (<http://www.sguc.ac.jp/>) をご覧ください。

中短子育てパーク

(中国短期大学)

設立年月日	平成21年 5月 30日
主なメンバー	中国短期大学学長・教員、NPO法人岡山市子どもセンター代表理事、吉備公民館職員、連合町内会長(吉備・陵南)、中学校校長(吉備)、小学校長(吉備・陵南)、幼稚園長(吉備東・吉備西・陵南)保育士(第3吉備保育園)、岡山市職員
所在地	岡山市北区庭瀬83番地
連絡先	086-293-0753

活動

『中短子育てパーク』の目標

キャンパスを地域に開放し、親子がすごせる場と人の提供を図っています。具体的な目標は次の通りです。

内容

物を大切にする心を育てる

地域の親同士・子ども同士が交流する

育児へ父親が参加する

自分たちの育児を見直す



機会と場を提供する

ちゅうたんおもちゃ公園

開催日時 年1回(3月上旬) 10:00~14:00

開催場所 中国短期大学キャンパス

参加対象者 地域で子育て中の親子

地域の親子にキャンパスを開放し、物を大切にする心を育てる取り組みです。

〈おもちゃや絵本の交換〉



捨てないで、ゆずる。買わないで、もらう。…自分の家で不要になったおもちゃや絵本を持ち寄り、必要な人に渡すリユースシステムです。中国短期大学が窓口となり、年間を通じておもちゃや絵本の回収を行っています。

〈おもちゃの病院〉



公民館を中心に活動している地域ボランティアの方がおもちゃドクターとなり、おもちゃの修理を行います。

〈遊び場〉



NPO法人岡山市子どもセンターが中心となり、学生と共にキャンパス内に遊び場を作ります。親と子が触れ合い、安心して遊べる場を提供しています。

この指とーまれ

開催日時 2ヶ月に1回 10:00~11:30

開催場所 中国短期大学キャンパス

参加対象者 地域の0、1、2歳児とその保護者

公民館と協働し、キャンパス内に地域の親同士や異年齢の子どもたちが交流する場をもっています。子育てのヒントとして、教員のミニ講座も提供しています。学生も参加し、親子と触れ合う体験をします。



にいま子育てカレッジ

(新見公立短期大学)

設立年月日 平成20年 4月 1日

主なメンバー 【大 学】新見公立短期大学 幼児教育学科・地域看護学専攻科(保健師養成)
 【地 域】新見市幼児クラブ交流事業実行委員会、にいま子どもセンター協議会、新見市保育協議会、
 主任児童委員連絡部会、新見市愛育委員会、新見市栄養改善協議会、新見商工会議所、
 新見市社会福祉協議会、新見子育て支援センター
 【行 政】新見市(こども課、健康づくり課、学校教育課、生涯学習課)、新見市立新見保育所、
 新見市立新見幼稚園、岡山県(備北保健所新見支所、備中県民局福祉振興課)

所 在 地 新見市西方1263-2

連 絡 先 0867-72-0634

活 動 内 容

『にいま子育てカレッジ』とは

地域の重要な社会資源である大学内に子育て支援拠点(子育てカレッジ)を設置し、大学の専門知識等を活かした事業などを実施します。
 地域の幅広い子育て支援関係者や子育て中の親などが事業実施や運営などに関わり、地域のニーズに即した地域協働型子育て支援事業です。

子育て中の親子交流ひろば “にこたん”開設



開設日時 毎週水曜・金曜・土曜日
午前10時～午後16時

子育て中の親子がゆっくり安心して過ごすことのできる交流の場“にこたん”を開設。専任のスタッフが常駐し、ノンプログラム・見守りの姿勢を基本に、親子で遊びたくなる環境づくりや親同士・子ども同士の関わりを促す雰囲気づくりを行っています。また、体験の共有・学び合い・主体的活動の促進を目的に、様々な人が主体となり活動の企画や運営を行う『にこたんタイム』も実施しています。

子育て支援者に対する専門研修



実施日数 6月～12月まで
年15日間

保育士、幼稚園教諭、子育てボランティアなど子育て支援に関わる方々(子育て支援者)が現場での課題をまとめ、大学教員等がその課題などに対し専門知識に基づいた研修を実施しています。それによって、子育て支援者それぞれが役割の認識を深め、地域全体の子育て支援力の向上を図ります。

子育て情報発信



子育てカレッジHPを設置し、にこたんの様子や利用人数・状況などをリアルタイムに配信(毎週水曜・金曜・土曜日 午前11時更新)。
 地域の各子育て広場の活動内容や幼児クラブ等の活動案内などの子育て情報もきめ細かく発信しています。また、「にいま子育てカレッジだより(年2回発行)」「にこたんだより(毎月発行)」など子育てカレッジに関する情報誌の発行や、にいま子育てカレッジ交流ひろば“にこたん”の見学及び概要説明も随時行い、子育てカレッジの取り組みなどの説明も行っています。

将来の子育て支援者育成支援



にいま子育てカレッジ運営協議会のメンバーらが、学生に対して授業の中で子育ての実情・子育て支援の現場の様子・支援へ向けての取り組みなどの状況を伝えています。それとともに、子育てカレッジで行う親子交流ひろば“にこたん”に学生が参加することにより、将来の子育て支援者を育成します。

子育て支援者 連携・育成



地域で活動している子育て支援者のための情報交換や連携の場を作ることで、子育て支援活動の充実やネットワーク化を図ります。また、地域の子育て広場の質の向上と広場同士の連携を図ることを目的とした「地域子育て支援者カレッジ研修会(年4回)」などを行います。

専門的な子育て相談 (子育て相談室“え～る”開設)



開設日時 毎月第4土曜日
午前10時～12時

子育て中の保護者や地域の子育て広場従事者、幼稚園教諭や保育所保育士などの子育て支援者を対象に、気軽にできる相談窓口として教育相談員による子育て相談室を開設。また、地域では解決の難しい子育て問題について、地域のネットワークを活かしながら、大学教員等が専門知識に基づいた解決策を考え、アドバイスします。それによって問題を抱える家庭等の負担の軽減・子育て力の育成、地域の対応力の向上を図ります。

旭川荘子育て応援隊「あそぼう屋」

(旭川荘厚生専門学院)

設立年月日 平成21年 6月 23日

主なメンバー 旭川荘厚生専門学院児童福祉科、牧石連合町内会、牧石親子クラブ、岡山市手をつなぐ育成会、さくら児童館、社会福祉法人旭川荘 子育てひろばよしい川

所在地 岡山市北区祇園866

連絡先 086-275-0145

活動内容

旭川荘子育て応援隊「あそぼう屋」概要

本学院はキャンパスを二か所に有する(旭川キャンパス北区祇園・吉井川キャンパス東区西大寺浜)。旭川キャンパスでは近隣の牧石学区との連携を図り、さくら児童館(学童保育)での夏休み支援活動と、「チャイルドルーム」と称する就学前の親子を対象にふれあい遊びを行っている。また、吉井川キャンパスでは隣接するデイサービス利用者や近隣の就園前の親子・近隣の保育園児との三世代交流を目指し、「子育てひろばよしい川」「地域子育て応援隊「あそぼう屋」を開催している。障がいを持つ子どもたちとの交流では、岡山市手をつなぐ育成会と協働で、「親子サマースクール」「お楽しみ会」を実施している。乳幼児や学童、障がい児を対象にした遊びの提供を行うとともに、保護者の日常の子育てでの悩みや不安等についての相談に教員が応じるなど、本校学生と教員を中心に、5つの事業を通して地域の方々との交流の機会を設けるとともに、保護者間のネットワーク作り、育児不安の解消、子どもたちが健やかに成長できるような地域の子育て支援事業に貢献することを目的として活動している。

地域子育て応援隊「あそぼう屋」

開催日時 秋1回

開催場所 社会福祉法人旭川荘 結びの社内 研修センターよしい川

参加対象者 近隣地域の未就園児とその保護者、近隣の保育園児、地域の子育て支援団体、隣接するデイサービス等利用者

☆学生による歌遊び・手遊び・マジックショー・オペレッタなどを行います。保護者同士もコミュニケーションの場、ネットワーク作り等、共に楽しんでいただけるような時間の提供を行います。育児の悩みごとなどお気軽にご相談ください☆



子育てひろばよしい川

開催日時 夏・冬各1回

開催場所 社会福祉法人旭川荘 結びの社内 三世代交流センター

参加対象者 近隣地域の未就園児とその保護者、近隣の保育園児、隣接するデイサービス等利用者

☆学生による人形劇やオペレッタを鑑賞したり、遊びの提供や、保護者同士の交流を図ります。隣接のデイサービスを利用される方々もお招きし、三世代での交流を図ります☆

さくらっこ ~さくら児童館~

開催日時 夏休み期間1日

開催場所 旭川荘厚生専門学院 旭川キャンパス リズム棟

参加対象者 牧石小学校学童保育の小学生

☆懐かしい工作作り(兜・剣など)や広いスペースを活用したゲームなどを通して、夏休み中の、地域の小学生との交流を図ります☆



チャイルドルーム

開催日時 9月~12月 3回程度

開催場所 旭川荘厚生専門学院 旭川キャンパス リズム棟

参加対象者 地域にお住まいの3歳未満児およびその保護者

☆3歳未満児とその保護者を対象に、学生が遊びを通じた交流を行います。手遊び・歌遊び・体操等を行います。家庭でもできるような遊びを保護者も身につけ、活用していただけるような内容です。また、教員は子育ての悩みや不安について相談に応じます☆



親子サマースクール ~岡山市手をつなぐ育成会協働事業~

開催日時 夏休み期間2日

開催場所 岡山市障害者体育センター

参加対象者 岡山市内および近郊にお住まいの障がい児・及びその家族

☆岡山市手をつなぐ育成会と協働で行います。夏休み期間では、手遊びやコーナー遊び・制作等を行います。また、個々に子どもたちと話したり、ふれあう時間を設け、学生との交流を深めます☆



お楽しみ会 ~岡山市手をつなぐ育成会協働事業~

開催日時 冬1回

開催場所 旭川荘厚生専門学院 旭川キャンパス リズム棟

参加対象者 岡山市内および近郊にお住まいの障がい児・及びその家族

☆岡山市手をつなぐ育成会と協働で行います。クリスマス会を催し、マジックショーやふれあい遊びを行い、交流を深めます☆

子育て支援プロジェクト・IPU

(環太平洋大学)

設立年月日	平成21年 6月 30日
主なメンバー	環太平洋大学こども発達学科、赤磐市保健福祉部、瀬戸内市保健福祉部、NPO法人赤磐子どもNPOセンター、赤磐地区私立保育園連盟、岡山市私立認可保育園園長会、岡山市みらい子育てネット・地域活動連絡協議会
所在地	岡山市東区瀬戸町観音寺721
連絡先	TEL:086-958-0200 FAX:086-958-0280

活動 内容

『子育て支援プロジェクト・IPU』概要

子育て支援プロジェクト・IPU(環太平洋大学次世代教育学部こども発達学科)では、わくわくキッズ広場、子育てルーム、地域交流の広場、心理教育相談を柱に地域の子育て支援を実施しています。これまで、学科の各教員が専門性を発揮し、子育て支援プロジェクトリーダー(文部科学省認可こども教育財団認定資格)を取得希望する学生が共働して子育て支援事業を開催しています。



1. IPUわくわくキッズ広場

開催日時 5/27、6/24、7/7、10/31、11/11、1/20(平成24年度)
10:00~12:00

開催場所 環太平洋大学第1キャンパス

参加対象者 保育園児・幼稚園児~小学生(0歳からでもできる活動内容を実施)

参加する子どもと保護者、学生と一緒に楽しめる活動を実施しています。主に、身体を動かして鬼ごっこやボール遊び、廃材を使っておもちゃ作り、音楽遊び、参加できる観劇、食育などです。



2. IPUわくわく子育てルーム

開催日時 毎月一回 10:30~12:00
平成24年度は

7/17、8/28、9/18、10/24、11/21、12/19、1/23に実施します。

開催場所 環太平洋大学第1キャンパス

参加対象者 子育てママとその子ども(主に、未就園児)

ママの子育てミニ講座:大学教員による専門的子育てアドバイス
ブレイルーム:学生が企画した遊びの広場



3. 心理教育相談室

開催日時 毎月一回 10:30~12:00
平成24年度は

7/17、8/28、9/18、10/24、11/21、12/19、1/23に実施します。

開催場所 IPU第1キャンパス芸術棟ブレイルーム

相談内容 発達支援、子育て不安など

4. 地域交流の広場

岡山市、赤磐市、瀬戸内市等の保育園や幼稚園、児童福祉施設等の施設、地域の子育てイベント、公共図書館へ出向き、学生が絵本の読み聞かせ、ペープサート劇場、託児補助、おもちゃ製作、ダンス指導等を展開しています。

就実子育てアカデミー

(就実大学・就実短期大学)

設立年月日	平成20年 8月 6日
主なメンバー	就実大学・就実短期大学、NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん、株式会社システムズナカシマ、宇野小学校、宇野幼稚園、宇野学区連合町内会、宇野保育園、浜保育園
所在地	就実教育実践研究センター：岡山市中区西川原1丁目6-1 就実こども園：岡山市中区西川原15-1
連絡先	就実こども園 支援専用電話：086-206-2120

活動 内容

『就実子育てアカデミー』の目的

- 地域の子育てにかかわる人々が集い、お互いの学びとなる「場」の構築
- 0～5歳児（未就園児）の定期的な受け入れ及び異年齢児との交流の「場」の構築
- 他の親子をモデルとする自らの子育てスタイルの確立
- NPO組織を中心とした地域の子育てに関する協働組織の構築
- 大学・短期大学の人的資源・物的資源の活用
- 地域の子育てリーダーの養成



①親子ふれあいタイム（サークル活動・子育てひろば）

開催日時	毎週火曜・金曜日（10:00～12:00）
開催場所	就実こども園
参加対象者	地域の未就園児とその保護者

毎週火曜日はプログラムを組んだサークル活動を実施しています。同年代のお子さんを持つ保護者でグループを構成し、支援スタッフを中心に1年間継続的な子育て支援を行います。
金曜日には子育てひろばを実施しています。専門スタッフと共に学生ボランティアが参加して、ノンプログラム型のひろば事業を通じた子育て支援を行います。



②親の学び講座

開催日時	毎週金曜日（10:00～12:00）
開催場所	就実こども園
参加対象者	子育て中の保護者

親子ふれあいタイムと並行して開催している親の学び講座では、子どもや子育てについて学習ができる機会を設けています。大学教員や専門家を講師として、少人数で実践を交えながら楽しく学べる講座です。
講座テーマ：ふれママサロン・産後のヨガ・ベビーマッサージ・0歳のつどい・パパといっしょ・わらべ歌・絵本・あそび・おもちゃ・いやいや歯磨き等



③子育てビタミンの発行・配布

情報発信型子育て支援として、これまで大学・短期大学に寄せられた、地域の保護者からの子育てに関するQ&Aを体系的に編集し、小冊子を作成しました。子育て支援の一環として、「こんにちは赤ちゃん事業」等を通じて子育て中の家庭・子育て支援に関わる機関に無料で配布しています。また、子育て支援携帯電話ポータルサイトの開発・運用にも取り組んでいます。
(URL: <http://shuji tsu-kododate.jp/>)



中国学園大学子ども・あごら

(中国学園大学)

設立年月日	平成21年 6月 1日
主なメンバー	中国学園大学子ども学部、岡山市立吉備小学校、岡山市立吉備東幼稚園、プーさん図書館
所在地	岡山市北区庭瀬83番地
連絡先	086-293-2831 (子ども学科直通)

活動 内容

『中国学園大学子ども・あごら』概要

子どもや子育てに対する幅広いサポートが求められている今、わたしたち大学には何ができるでしょうか。中国学園大学子ども学部の子育てカレッジ「中国学園大学子ども・あごら」はそうした思いからつくられました。

「あごら」とは、古代ギリシャで「広場」を意味する言葉であり、政治、経済、哲学などの中心地を意味しています。「子ども・あごら」には、大学が子どもや子育てのサポートの中心の場になっていこうとの思いが込められています。

平成21年6月の開設以来、子どもの広場や子ども音楽会、絵本の読み聞かせ活動など、地域の子どもや子育てのサポートにかかわる幅広い取り組みを行っています。



◆子どもの広場

毎年10月の大学祭の期間に、地域の子育て中の親子を対象とした「子どもの広場」を開催しています。当日は子ども学部の学生たちが中国学園大学12号館の4、5階のフロアを利用して、赤ちゃんから小学生まで楽しめる各種遊びのコーナー（造形遊び、ごっこ遊び、わなげ、巨大迷路など）を設置します。

子どもたちは緑日の屋台を楽しむかのごとく、それらを思う存分楽しみます。その他、「科学遊び」「音楽遊び」などの特設コーナーやステージも設置されます。



◆子ども音楽会

毎年12月の中旬に、地域の家庭や保育園・幼稚園、小学校などの子どもを招待して、「子ども音楽会」を開催しています。

場所は中国学園大学7号館音楽ホールです。

当日は子ども学部の学生たちが日頃の音楽関連の授業で学んだことを発表します。

主な演目は、合唱、合奏、トーンチャイム、オペレッタ、人形劇など。子どもとかかわる専門職をめざす学生たちにとって、スキルアップの場となります。



◆絵本の読み聞かせ活動

近隣の幼稚園や小学校、プーさん図書館と連携し、子どものための絵本の読み聞かせ活動を行っています。

絵本に限らず、紙芝居や大型絵本、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアターなど、さまざまな形式を取り入れています。

形式に違いはあっても、子どもたちに物語の世界をたっぷり味わってもらい、その楽しさを通じて本の大好きな子どもに育ててほしいとの思いは共通しています。学生たちも子どもとじかにふれ合うことができ、スキルアップのよい機会となります。

県大そうじゃ子育てカレッジ (岡山県立大学)

設立年月日	平成21年 12月 7日
主なメンバー	岡山県立大学保健福祉推進センター、保健福祉学部、子育て応援こっこ、ほのぼの子育てほっとはあと、「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会、総社市こども課、備中県民局福祉振興課
所在地	総社市窪木111
連絡先	0866-94-2111 (代表)

活動 内容

『県大そうじゃ子育てカレッジ』概要

岡山県立大学と「子育て王国そうじゃ」の民・官・学協働による子育て支援を行っています。カレッジ実行委員会では、各団体が対等な立場で企画案等を持ち寄り検討しています。親子交流ひろばをはじめ、各種研修会の企画実施や、母親・父親対象の支援プログラムの実施など、地域の子育て支援充実に向けた民・官・学のコラボレーションは豊かな広がりを見せています。

◆学生が参加して実施する親子交流



1. チュッピーひろば

開催日時 毎週水曜日 (第2週は火曜日)

開催場所 岡山県立大学学部共通棟西 5128 遊戯室

毎週1回、総社市の子育て支援拠点(ひろば型)の出張ひろばとして、チュッピーひろばを開催しています。緑ゆたかで広大な県大キャンパスは、親子にとって、安心して過ごせる場所となっており、父親も一緒に来るケースもよくみられます。



2. 大学教育との連携

ひろばは、保健福祉学部の専門職養成教育(保育士・看護師・栄養士)の場としても活用されています。授業の成果発表(「子どものためのアートパフォーマンス」ほか)や、特別講義(聞かせ屋。けいたろう氏:「絵本読み聞かせ公演」ほか)、ひろばスタッフによる講話、卒業研究協力など、多彩な形でひろばの企画充実と大学教育の向上を目指しています。

3. 親子で楽しむ音楽会

岡山フィルハーモニック管弦楽団による演奏と声楽家でもある教授・岡崎順子の歌声に、会場の県大講堂いっぱいの親子が聴き入りしました。

◆保育士、幼稚園教諭、その他地域の子育てサービスの提供者に対する質的向上の取組



1. 保育ステップアップ講座

現場の保育に直結する講座を企画・実施しています。23年度は「『楽しい!』『できる!』体育をめざして～からだがつつ基礎的な力を高める～」(講師:教授・後藤清志)、「保護者の育児ストレスとどう向き合うか」(講師:准教授・池田隆英)等の講座を開催しました。

2. 総社市子育て支援ネットワーク研修会

総社市内の子育て支援活動を行う団体等を対象に研修会を開催しています。これまで、「総社市における子育て支援の現状」、「これからの地域子育て支援」(講師:関西学院大学 教育学部 准教授 橋本真紀氏)を開催してきました。

◆子育てや子育て支援に関する相談の実施



1. NP(ノーバディーズパーフェクトプログラム)の実施

カナダで生まれた親支援プログラムを実施しています。支援が必要な人に参加していただけるよう、いっそうの充実をめざしてゆきます。

2. 父親支援プログラムの実施

「育メンプログラム」、「エンジョイ!お父さんプログラム」を開催してきました。父親同士が相互に学びあう貴重な機会になっています。

◆地域の子育て支援関係者の情報交換



子どもと保育研究会

地域で活動している子育て支援関係者等と、大学教員との情報交換と研修の場として年間4~5回の研究会を開催しています。本学教員にとっても、現場実践から学びを得る場となっています。

吉備国際大学たかはし子育てカレッジ

(吉備国際大学)

設立年月日 平成22年 5月 12日

主なメンバー 吉備国際大学心理学部子ども発達教育学科、高梁市民生委員児童委員協議会、高梁市内保育関係者、NPOcolor、高梁市青年経済協議会、高梁市市民生活部子ども課、高梁市子育て支援センター、高梁市教育委員会社会教育課、岡山県備中県民局健康福祉部福祉振興課子育て支援班、岡山県備北保健所

所在地 高梁市伊賀町8番地

連絡先 吉備国際大学心理学部子ども発達教育学科 0866-22-9214 (FAX兼)

活動 内容

『吉備国際大学たかはし子育てカレッジ』概要

吉備国際大学内に設置された高梁市子育て支援センター『ゆう・ゆう(遊・友)ひろば』を地域の総合的活動拠点として、親子交流できる遊びや遊び場の提供・見守り活動を行っているほか、近隣の畑で大学生と親子が農作物の収穫を行ったり、学内の子ども広場で「吉備子どもフェスティバル」を開催し、学生と親子の交流を促進している。また、大学の知的資源を活用し、市内の保育士や幼稚園教諭等を対象とした子育て支援専門講座や、子育て中の保護者等を対象とした各種の子育て講座、子育て相談等の取り組みを実施している。

(学生と秋のお祭り会)



(学生とハロウィンパーティー)



(学生とクリスマス会)



(大学の畑で学生と芋掘り会)



(吉備子どもフェスティバル)



(子育て講座でリフレッシュ)



◆『ゆう・ゆう(遊・友)ひろば』ってどんなところ？

就学前の子どもと保護者が気軽に集まり、保育士や学生スタッフとおしゃべりしたり、ゆったりと遊べる交流スペースです。毎週月曜日～木曜日の10時～16時は、「保育サロン」を実施しています。

保育サロンは、子どもの育ちあいの場、子育てをしている保護者同士の仲間づくりの場、自由に参加できる憩いの場です。また、毎週金曜日の10時～11時半は、「オープンスペース」を実施しています。

オープンスペースは、保育士が年齢別のあそびを企画し、親子と保育士・学生スタッフが交流する場です。その他、保護者の病気や急用、残業や休日出勤等、パパ・ママの「困ったな、どうしよう？」に応えるファミリーサポートセンター事業や、大学教員と協同で子育ての不安・悩み等の子育て相談、各種の子育て講座等を実施しています。

・・・このような活動が評価され、当子育てカレッジは、「平成23年度岡山県夢づくり推進賞(備中県民局長表彰)」に続き、「平成24年度岡山県夢づくり推進大賞(県知事表彰)」を受賞しました。

倉敷市立短期大学子育てカレッジ (倉敷市立短期大学)

設立年月日	平成23年6月8日
主なメンバー	倉敷市立短期大学保育学科、倉敷市主任児童委員、倉敷市放課後児童クラブ運営委員長、倉敷市児島児童館、児島市民病院小児科、倉敷市子育て支援課、倉敷市教育委員会生涯学習課、倉敷市公立幼稚園園長会、倉敷市公立保育園園長会
所在地	倉敷市児島稗田町160番地
連絡先	086-441-1088 (くららっこ直通)



活動内容 『倉敷市立短期大学子育てカレッジ』概要

倉敷市立短期大学子育てカレッジでは、保育学科の専門性と特性を生かし、教員、専任保育士、学生実行委員、短大事務局職員だけでなく岡山県備中県民局、倉敷市教育委員会生涯学習課、倉敷市子ども未来部子育て支援課、そして、児島市民病院小児科、児島児童館、倉敷市内幼稚園・保育所の園長会のみならずにも地域のアドバイザーとしてご協力いただきながら、親子交流事業を展開していることが特徴です。その拠点となるのは、倉短ひろば「くららっこ」。「くららっこ」では、専任保育士が常駐し、親子が集い、豊かな親子交流を育むお手伝いをしています。また、子育てカレッジ事業として、運動を通じた親子ふれあいあそび場の提供や演奏会、人形劇、工作ワークショップなど、学生参加の各種行事が企画されています。この他、子育て支援者向けの専門研修事業、子育て相談なども行っています。



倉短ひろば “くららっこ”

開催日時	毎週月曜日・水曜日・金曜日 10時～15時
開催場所	倉敷市立短期大学 本館 親子交流広場
参加対象者	就学前の乳幼児親子

木製のおもちゃに囲まれたあたたかい雰囲気の中で、ゆっくりと親子の交流を育むことのできるひろばです。季節の行事、ふれあいあそび、お母さんタイムといった時間や学生企画の「おんがくであそぼう!」「えいよう!あそぼう!エイエイオー!」などの行事も行っています。また、外部講師による、親子であそぶわらべうた、ナチュラルスロータイトム等のイベントも設けています。また、子育てに関する悩みをお持ちの方のために「くららっこ相談室」を設けています。相談内容によっては、学内外の専門家と連携をとりながら進めています。



専門研修 “くららっこ講座”

開催日時	年間6回程度
開催場所	ライフパーク倉敷
参加対象者	子育て支援に従事している方々

保育士、幼稚園教諭、その他の地域の子育て支援サービスの提供者に対する資質向上の取り組みとして講座を行っています。ライフパーク倉敷市民学習センターとの共催で、児島市民病院小児科の医師からの協力も得て、実施しています。これまでに、「子どもの事故と保育者・指導員等の責任」「ダウン症児の医療ケア」「送ってうれしい!もらってうれしい!ポップアップカード制作」「絵本と親子関係」などの専門研修を行いました。



学生企画の地域子育て支援活動

開催日時	年間70～80回程度
開催場所	倉敷市立短期大学体育館、倉敷市内保育所・幼稚園ほか
参加対象者	主に就学前の乳幼児とその保護者

保育学科の学生がゼミやサークル単位で、さまざまな地域子育て支援活動を企画し実施しています。地域の方々とふれあう中で、子育ての輪を広げ、学生も保育者としての資質を高める機会となっています。

- ・倉敷市立短大「子どもの劇場」 年間約20回公演 (倉敷市内保育所・幼稚園ほか)
- ・運動体験部「親子ふれあいパーク」 年間10回程度開催 (倉敷市立短期大学体育館)
- ・障がい児支援「WITH・THE☆MAC」 年間20回程度開催 (岡山県立早島支援学校ほか)
- ・音楽系ゼミ「楽しい音楽遊びとライブ演奏」「音楽療法」など 年間15回程度開催 (倉敷市内保育所・幼稚園ほか)

みまさか子育てカレッジ

(美作大学・美作大学短期大学部)

設立年月日 平成24年 4月 1日

主なメンバー 美作大学・美作大学短期大学部、美作大学附属幼稚園、津山市、津山市保育協議会、NPO法人みる・あそぶ・そだつ津山子ども広場、津山市社会福祉協議会、岡山県美作県民局

所在地 津山市北園町50

連絡先 美作大学・美作大学短期大学部：0868-22-7718 (代表)



活動 内容

『みまさか子育てカレッジ』概要

「みまさか子育てカレッジ」は、平成24年4月1日からスタートしました。カレッジの中心となる美作大学・美作大学短期大学部は岡山県美作地域では唯一の大学です。地域と行政機関とともに、美作地域の子育て支援を幅広く行っていきます。大学の体育館を遊び場として解放し、乳・幼児の親子と大学生が一緒に交流する親子交流を中心とした活動を行います。さらに、子育て支援サービス提供者の資質向上への取組み、子育てや子育て支援の情報発信としての講演会などを開催します。



親子で運動あそび

開催日時 5・6・7・10・11月の第2金曜日 午前10:30~11:30

開催場所 美作大学体育館

参加対象者 未就園児 親子100組

体育館に大型遊具やマット、トランポリンなどを乳幼児に適した遊び場になるように学生たちが環境構成し、乳幼児の親子と共に遊びます。

親子ふれあいフェスティバル

開催日時 平成24年 6月 24日(日) 午後1:00~

開催場所 美作大学体育館

参加対象者 3才~6才未就学児親子

健康な心と体の育成と親子の絆を深めるために、親子でふれあいあそびをしたり、いろいろな素材を使ったおもちゃづくりを体験する活動を大学教員の指導と学生の支援のもとで行いました。

保育・幼児教育ステップアップ研修会

開催日時 平成24年 8月 18日(土)

開催場所 美作大学

参加対象者 美作地域の幼稚園・保育園の保育者

保育者の質的向上を目的とした講演会の開催。講演会終了後は、子育て支援についての情報交換会を実施します。

子育て支援講座「親塾」

開催日時 平成24年9月~10月 4回

開催場所 美作大学

参加対象者 誰でも参加できます。

「子どもの知性を育むための親の関わりについて」のテーマで、大学の教員を中心として子育てについての講演会を実施します。

来場者へのアンケート結果

回答者数：173名（参加者278名中）

■ Q1 あなたの性別は？

1. 男	30名	2. 女	143名
------	-----	------	------

■ Q2 あなたの所属は？（複数回答有り）

1. 保育士養成校	37名	3. 団体	14名	5. その他	36名
2. 官公庁	45名	4. 子育て支援グループ	37名	無回答	5名

■ Q2 5. その他内訳

保育園	6名	保育士	8名	大学	1名	教諭	1名
保育所	4名	大学生	2名	公民館	1名	無記入	9名
パート保育士	1名	職場	1名	幼稚園教諭	2名		

■ Q3 あなたのご住所は？

1. 岡山県内	150名	2. 岡山県外	20名	無回答	3名
---------	------	---------	-----	-----	----

■ Q4 シンポジウムをどこで知りましたか？（複数回答有り）

1. チラシ	51名	3. カレッジ関係者	72名	5. その他	27名
2. ホームページ	1名	4. 知人	22名	無回答	1名

■ Q4 5. その他内訳

全国子育てひろば配信メール	1名	4年前参加した教員から	1名	学校	1名
先生	1名	保育園	1名	行政関係	1名
大学の先生	1名	4年前の参加者から案内をもらった	1名	事前打合	1名
研修案内	1名	園より	1名	無記入	6名
職場・職場の案内	7名	園の先輩	3名		

■ Q5 シンポジウムの内容はどうでしたか？

1. 期待以上だった	34名	3. 普通	35名	無記入	34名
2. 期待通りだった	68名	4. やや期待外れだった	2名		

■ Q6 子育てカレッジを知っていましたか？

1. 知っていた	98名	3. 知らなかった	39名	無記入	5名
2. 名前は聞いたことがあった	31名				

■ Q7 理解が深まりましたか？

1. 十分深まった	58名	3. あまり深まらなかった	3名	無記入	26名
2. やや深まった	86名				

■ Q8 プログラムについて [基調講演]

1. 非常に良かった	21名	3. 普通	81名	無記入	2名
2. 良かった	64名	4. 良くなかった	5名		

編集後記

今回のシンポジウムは、各子育てカレッジや関係市町村との協働により、実施したものであり、開催内容については、各カレッジの意見を下記世話人で集約し協議を行いました。

○おかやま子育てカレッジ全国発信事業世話人

所属	役職	氏名	備考
子育て支援プロジェクト・IPU実行委員会	委員長	勝田 麻津子	
就実子育てアカデミー実行委員会	委員長	佐藤 和順	
にのみ子育てカレッジ運営協議会	運営委員長	片山 啓子	代表世話人
県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会	委員長	岡崎 順子	
備前県民局健康福祉部福祉振興課	副参事	平松 完治	
備中県民局健康福祉部福祉振興課	主幹	杉山 英範	
美作県民局健康福祉部福祉振興課	主任	仁木 章文	
保健福祉部子ども未来課少子化対策班	総括参事	河田 恭利	



【おかやま子育てカレッジに関するお問い合わせ先】

岡山県保健福祉部子ども未来課少子化対策班 TEL.086-226-7347 (直通)

